

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり山手 つつじ館		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022.kan=true&JigyosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当初から掲げているホーム理念を常に意識し、入居者様が安らぎの暮らしを送って頂ける様に普段の生活を大切にしながら入居者様のケアを行っています。「今出来る事」したい」と言う気持ちに応えられるよう、日常生活に取り入れ何気ない支援とし、フロー、居室の掃除、調理のお手伝い(野菜の下ごしらえ、盛り付け)テーブル拭き、食器拭き、雑巾縫いなどをスタッフと共に行って頂いています。又、午前、午後と体操、歌レクを行い生活のメリハリを付け、月に1度は外出レクを企画しています、最近では木下大サーカスを観に行き皆さんとても喜ばれていました。今年のみり山手7周年記念としてホームに出長寿司を頼み、皆様いつもとは違う雰囲気の中で食事をして頂き、町内会のパーベキュー・ゲームに参加し、町内会の方々とのふれあいに入居者様も喜んでおりました。地域貢献活動では、毎年市内の小学校に「車椅子体験」の指導員ボランティアとして参加させて頂いています。今私たちスタッフが出来る事を話し合いより良いケアに繋げていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅からバスで10分ほどの閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には大小の公園や小中学校があり、バス停やスーパー、床屋なども至近で利便性に優れている。建物内は共用空間が広く、清掃も行き届いている。浴室やトイレ、洗面所、エレベーター、エアコンなどの設備も整っている。居室は利用者が個々に馴染みの家具や趣味の品物を持ち込み、自分らしく過ごせる空間となっている。法人が多数のグループホームを運営しており、本部の支援や各種のマニュアル、研修などが整っているのも特徴である。事業所としても職員教育に力を入れており、職員は理念をよく理解し、利用者によりきめ細かく接している。ケアマネジメントの面では、ルールに沿って介護計画の見直しや記録の作成が行われ、利用者のアセスメントシートの整備も順次進められている。入浴の面では、利用者の希望に沿った時間帯や回数の入浴ができるように支援している。また、外出支援の面では、外出行事を頻繁に行い、花見や紅葉狩り、大型ショッピングセンター、博物館、サーカス、カラオケ、道の駅など、多様な場所に出かけて楽しんでいる。利用者が明るく快適に過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々とのふれあいを大切にし、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します」のホーム理念と経営理念、福祉三原則を、毎朝唱和して実践している。	開設後に作成した事業所独自の理念の中に「地域の人々とのふれあいを大切にし」という文言があり、地域密着型サービスを意識している。理念を事務所に掲示し、毎朝唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、地域の行事に参加したり、近所を散歩する際に交流をしている。また、ボランティアとして、フラダンスの方の訪問を受けている。	町内会に参加し、住区会館で行われるバーベキューなどに利用者と一緒に参加している。事業所前に公園があり、日常的に住民とあいさつを交わしている。事業所で焼き肉を行ったときは近所の中学生の参加があり交流できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方に対して理解して頂く為、ホームでのケアを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、町内会長、民生委員、地域包括センター職員、市の職員、御家族さまが参加して、行事や入居者さまの様子を報告し、御意見を頂いてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を2か月毎に開催し、市や地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族の参加を得ている。毎回テーマを用意しているが、他の話し合いのためテーマに関する話し合いまでできないこともある。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や北広島グループホーム議会などで情報交換を行っている。また、不明なことがあれば、市の担当者に連絡して相談している。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの参加を得て情報提供を受けている。市の介護人材育成制度に協力し、研修生の受け入れを行っている。3か月毎の北広島グループホーム部会でも行政担当者と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の具体的な行為をスタッフルームに掲示して、全ての職員が確認している。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束のマニュアルが用意され、禁止行為は事務所にも見やすく掲示している。また、さらに勉強会で理解を進める方針としている。玄関は日中施錠せず、中から開錠できる自動ドアとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内に虐待防止委員会を設置し各事業所で虐待がないよう取り組んでいる。また、研修に参加して学ぶ機会を持っている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について、研修や講演会に参加したり、研修報告のレポートを通して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、その後も面会時に不安や疑問点を尋ね、信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事への参加を呼びかけ、意見や要望を聞いている。また、直接社長へ届く「御意見箱」を設置している。	家族は平均して月1回以上来訪し、その際に意見を聞き、得られた意見を連絡ノートで共有している。毎月、行事の写真などを載せたユニットごとの「みのり通信」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を随時開催して意見交換をしている。また、管理者との個人面談を年に2回実施して意見や提案を聞き、運営に反映させている。	全体会議とユニット会議を月1回を目標に開催している。また、年2回、管理者と職員の面談も行っている。職員は事故防止や車両、通信、消耗品管理、行事などを分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己目標を立てて取り組んでいる。それを踏まえて年2回自己評価を行い、ホーム長との面談で反省や振り返りの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて、入社3ヶ月、1年、2年後の研修を行っている。その他に勉強会や研修会に参加し個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者集會に参加しネットワークをつくっている。また、市内のグループホーム間で職員が訪問して交流する機会をつくり、サービスの質の向上に繋げている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者さまが不安な気持ちを感じないよう、常に声掛けをし、笑顔で対応することで、安心と信頼関係を築くよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にアセスメントを行い、家族が困っている事、不安なこと要望を聞き取るようにし、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人、御家族の意見・要望を聞き、本人を尊重したケアが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、自らやってもらい、お手伝いのできることは、職員と一緒にするなど、生活を共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは、手紙や電話・面会などで生活の様子をお伝えし、本人が何を望んでいるか、今何が必要かをお話し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた人や場所をお話の中でお聞きし、出来るだけ要望に応えられるよう努めている。	数名の利用者に友人や知人が来訪している。踊りが趣味の利用者に、友人が踊りのビデオを見せに来ることもある。隣にある床屋やスーパーが馴染みの外出先となっている。博物館で市の歴史を見て懐かしむ機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さま同士が、会話やコミュニケーションがとれるよう、職員も一緒に交わる事で、利用者同士の関係が良くなるよう努めている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様、御家族様から連絡があっても、いつでも相談、御支援できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を、普段の会話などから把握し、意向に添える様努めている。	8割以上の方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方は表情やしぐさから把握している。アセスメントシートを整備しているが、「暮らしの情報シート」は利用者により充実度に差がみられる。	「暮らしの情報シート」について、全利用者の内容の充実が進められることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活を、本人や御家族様からお聞きし、出来るだけ生活環境が変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味や価値観など、本人の暮らしを把握し、これまでと同じような暮らしができる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の意向を把握し、本人の出来る事を、尊厳を尊重し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月毎に介護計画を見直し作成している。職員の意見をグループウェアなどで集約し、モニタリングと評価表を作成の上、計画を更新している。ケース記録に計画目標を載せ、目標に沿った支援と記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活・行動・気付きなど、ケース記録に記録し職員間で情報を共有することで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、柔軟な支援やサービスを行い、様々なサービスに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や歯医者・床屋や、お祭りなどに利用参加し、地域の資源と人々との交流を活用させていただき豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月2回来て頂き、定期健診も行っていません。また、個人の掛かりつけの医療関係についても、市内の通院介助を行っています。	協力医による月2回の往診があり、その他の通院も市内への通院は事業所で支援を行っている。個人ごとに受診記録を作成し、共有している。	

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が来て、普段の様子、体調の変化、受診の情報を伝えて、変わった様子があれば相談して指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医があり、常に相談できる状態で、24時間対応できる関係にあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族さまと、密に連絡を取りながら、スタッフも積極的に勉強会に参加しております。	「重度化・看取りに関する指針」を示し、事業所の対応可能な範囲や方針を説明し、同意書を得ている。過去に1名の見取りを経験し、今後も対応可能な範囲で看取りを行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応出来る様に、常に事務所内に緊急時のマニュアルが用意されております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々にも参加して頂き、日中、夜間共対応出来る様に、避難訓練を行っております。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防の協力を得て実施しているが、最近は住民の参加が得られていない。職員の救急救命訓練はまだ全職員の受講には至っていない。災害時の備蓄品を用意している。	避難訓練に住民の参加を得られるよう、呼びかけを期待したい。救急救命訓練の計画的な受講と、地震対応に関する定期的なマニュアル確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性を大切に、解り易い言葉で話すように心掛けています。	法人による定期研修や事業所内で接遇等の学習を行っている。職員の対応や言葉かけは優しく、細やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の話を良く聞き、選択出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況をみながら、個々のペースに合わせて、日常生活を送って頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の意見を聞きながら、洋服を選んだり、化粧されるときは、声を掛けながら対応しています。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好き嫌いを把握し、献立を作成している。また、入居者様にもやしの芽取りやいなり寿司作りをして頂いたり、野菜の下ごしらえなどを一緒にして頂くこともある。	バラエティーに富んだ一汁三菜の献立である。季節の行事食をはじめ、出張出前寿司や大晦日の豪華な食卓、様々な場所への外食レクなど、食の楽しみごとが豊富である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師などとも相談し、体重や本人の食事量、栄養バランスを考慮して提供を行っている。また、天気や気温に応じて水分摂取を行い、咽せがある方には寒天ゼリーやトロミを付けて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを行っている。自分で行う方も多いが、そうでない方は職員が介助を行っている。また、自ら行う方も夜には義歯を預かり、義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔をチェックして、入居者様毎の排泄パターンを把握している。それに合わせてトイレ誘導を行い、極カトイレで排泄出来るように支援を行っている。	ケース記録に全員の排泄状況を記し、毎日確認を行っている。個別の誘導等はもとより、食前には、全員に向け声かけを行うなど、尊厳に配慮している。夜間、個々の状態に応じ、ポータブルトイレを使用している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談して下剤の調整を行っているが、出来るだけ自然に排便できるよう、乳製品や食物繊維を豊富に含む食品を提供したり、体操への参加を呼びかけている。また、一部の入居者様は水分提供方法を見直し、便の状態が改善されている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様が好む時間帯などを考慮し、時間や順番を決めている。湯あたりしないように声掛けを行っている。	本人の最善を考え、1名のみ曜日を決めているが、曜日を問わず毎日の入浴が可能である。時間や日にちを変えるなどして、スムーズな入浴につなげている。湯は一人ひとり交換し、好みの入浴剤が選べる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様ごとの生活リズムを把握し、体に負担がかからないよう、休息をとって頂いたり、余暇を過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルし、変更があった際には特記事項や申し送りにて共有している。体調に変化があった際には記録に残し、受診の際に報告出来る様にしている。また、服薬者と別な職員が必ず確認を行い、服薬ミスを防止している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味・嗜好を把握し、一人ひとりにあった生活を送って頂ける様支援している。掃除や調理の手伝いをして頂いたり、居室で琴を嗜まれたりされている。			

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く、暖かい日には散歩に出かけている。また、月に1度のペースで外出などの行事を行い、普段とは違った食事を召し上がって頂いたり楽しんで頂ける様に努めている。	目の前の公園を最後の目的地とし、適度な距離の散歩を楽しんでもらっている。毎月の外出レクは、その時々希望等も考慮し、昼食を兼ねて出かけている。豊平峡、エコミュージアム、小金湯桜の森、博物館、大型スーパーなど行き先が多彩である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は御家族様よりお預りしていたが、現在はホームで一度立替ってから後日請求している。必要なものはすぐに購入出来る様にしているが、極力出費を抑え、御家族様への負担がかからないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際には連絡ができる様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって過ごしやすい環境を提供する為に日中と夜間に気温と湿度をチェックし、暖房をつけたり、換気を行っている。また、夜間はモップ掛けを行い、床の消毒もしている。	共用空間は清潔で衛生管理に配慮されている。特に水回りスペースの管理が行き届いている。エアコンや除菌を兼ねた空調機器などを設置している。ロールブラインドを用い、眩しさを調節している。装飾は、家庭的な設えを基本とし、落ち着いた空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席のほかにソファを配置し、仲の良い入居者様同士でくつろがれたり、テレビを観て頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には私物や以前使っていたものをお持ち頂き、自分の空間を作っていただいている。入居差様によっては御家族様の写真などを飾って頂ける様支援している。	居室入り口には暖簾や装飾、名前など、自室とわかる工夫をしている。室内はクロゼット型の押入れが備え付けられている。好みの家具や調度品、趣味の物などが置かれ、本人の意向に応じた環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・リビング・トイレ・浴室などには手すりをつけ、歩行や立位に不安がある方でも安心して移動したり出来る様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり山手 かえで館		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当初から掲げているホーム理念を常に意識し、入居者が安らぎのくらしを送って頂ける様に普段の生活を大切にしながら入居者様のケアを行っています。「今出来る事」「したい」と言う気持ちに応えられるよう、日常生活に取り入れ何気ない支援とし、フローワー、居室の掃除、調理のお手伝い(野菜の下ごしらえ、盛り付け)テーブル拭き、食器拭き、雑巾縫いなどをスタッフと共に行って頂いています。又、午前、午後と体操、歌レクを行い生活のメリハリを付け、月に1度は外出レクを企画しています、最近では木下大サーカスを観に行き皆さんとても喜ばれていました。今年のみり山手7周年記念としてホームに出長寿司を頼み、皆様いつもとは違う雰囲気の中で食事をして頂き、町内会のバーベキュー・ゲームに参加し、町内会の方々とのふれあいに入居者様も喜んでおりました。地域貢献活動では、毎年市内の小学校に「車椅子体験」の指導員ボランティアとして参加させて頂いています。今私たちスタッフが出来る事を話し合いより良いケアに繋げていきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年9月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「地域の人々とのふれあいを大切にし、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します。」を毎朝朝礼で唱和しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の散歩や町内会の行事等に参加して町内の方とのコミュニケーションを計っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方に対して理解して頂く為、ホームでのケアを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、毎月の行事や入居者様の様子などを報告し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市の担当職員、御家族様に参加され、皆様からの意見交換を頂きサービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、北広島グループホーム部会にホーム長出席し情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルをいつでもスタッフが確認できるようにスタッフルームに常備し、意識向上を計っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所に身体拘束に該当する具体的な行為を貼り、職員が意識した行動をとっている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し学び、レポートにて他の職員と共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明をし、分からない事はその都度説明をし、理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への呼びかけを行い、会議の議事録は入り口の掲示に閲覧し、家族様、役所等には郵送している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループウェアを通じ意見の交換が出来るようになってきている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の考課表を行い、ホーム長との面談を行い各自が向上心を保つよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修の参加や社外の研修への参加が出来るよう職員に促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHとの交流として職員が他ホームに見学したり、受け入れしたり職員との意見交換をし、向上するよう取り組みをしている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、困っていることや不安になることがないように、常に笑顔で言葉をかけ傾聴し、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にアセスメントを行い、家族が困っていること、不安なこと、要望を聞きとるようにし、入居後も信頼できる関係でいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の希望を尊重しケアマネを含め、他スタッフの意見を取りいれて、より良いケアを行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを、やってもらい、声かけし、手伝ってもらえることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、電話、面会時などに現在の生活の様子などを説明し、ご家族様から話や要望を聞き、関係を深める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が立ち寄れるようにしている。本人が行きたい所に行けるよう支援する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やコミュニケーションをとれるようにスタッフが橋渡しを行い、入居者同士が仲良くなれるよう努めている。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様、御家族様の相談など、いつでもホームに連絡あっても良いように受け入れ態勢は出来ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に、生活の要望や意向を定期的に伺っている。また、困難な方に対しては身体状況や生活状況を踏まえ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から、今までの生活歴等の情報を収集し、スタッフ間で情報を共有し、ケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認、申し送り、カンファレンスをして現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン変更の際はスタッフから意見を集め、統一したケアを行っている。聞き取りが可能な場合はご本人からも伺っている。家族様のニーズも来訪時等に直接お話しをし、聞き取りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日報の特記事項を、職員全員が読み、申し送りをしている。又、ユニット会議を開き話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ・訪問歯科・訪問理美容等希望の方が利用できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、近所の公園や理容室に出かけている。また、訪問寿司や地域のボランティアを招いたり、毎月外出レクを実施し楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医は月に2回の訪問診療を行い、24時間受け入れ可能。本人の病状に合わせて家族様と相談し対応している。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、訪問看護師が入り、体調の変化や受診結果等を報告し、看護面のアドバイスや、助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月2回提携病院より医師が訪問診療に訪れ、体調管理や治療を受けられる関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行う事に対しての、不安やケアを統一する為の研修を、他施設の職員を講師に招き勉強会を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも確認出来る所へ設置している。また入居者さまの情報共有を行い緊急時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を消防との連携を図りながら実施している。町内の方も参加し、避難訓練を行っています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの意思を尊重し、寄り添ったケアや、言葉かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者さまと、コミュニケーションを図り、思いを伝えやすい雰囲気作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちを尊重し、ご本人のペースで生活して頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者さまの意思を尊重し、衣服を一緒に選んだり、洗面や整容が出来る様に声掛けや介助を行っています。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と簡単な調理(芋の皮むきなど)や盛り付け、また、下膳なども声掛けし一緒に行っています。入居者様の好みに配慮した献立を作成し、調理に当たっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの方には、量を減らしたり工夫しています。一人一人の食べれる量を把握し、また食べやすい形状にして提供しています。水分は好みに添ったもの、また摂取量を記録し把握した上で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方には介助にて行い、自分で出来る方についても、見守りし仕上げや確認を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のペースを把握、記録し時間を見て、トイレの声掛けを行っています。車いすの方でも、立位が取れる場合にはトイレでの排泄をして頂ける様声掛けしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを良くする乳製品や、食物繊維を多く含む野菜などを提供出来るよう配慮しています。水分を摂取して頂けるよう声掛けや、運動、またお腹のマッサージを行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ずご本人の意思を確認し入浴して頂いております。また、ご本人の希望した時間帯に入浴出来るよう配慮しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が眠くなったら眠ってもらえるよう配慮し、電気がつけたままであったり、テレビを見ながらだったり、一人ひとりの生活習慣を尊重し、安眠出来るよう配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、また用法容量は職員全員が把握し理解しています。疑問があれば提携医などに相談や質問をし、理解するように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活の張り合いや喜び、また楽しみが持てるよう、台所の手伝い、洗濯物畳み、散歩、歌レクレーション、ボランティアの先生によるフラダンス、外出レクなど、得意な事、好きな事を行って頂いております。		

グループホームみのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など希望される時の支援体制を整え、外出レクでは職員同行で外食やカラオケや見学など等希望に合わせた計画を立てています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使う時はホームで立て替え、後から請求しております。希望される物や必要な物はその都度購入出来る様対応しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは本人の気持ちに添えるようにしているが、現在電話を掛けたいと申し出がない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度変化や湿度、換気等に気を配り快適に過ごし頂くように配慮しています。入浴の際には浴室と脱衣場との温度差が無いよう配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状態等を考慮し食席の配置を行っております。利用者様同士が気兼ねなく会話出来たり、ゆっくりとテレビを見たりとソファも配置しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の思い出の品や家族との写真などを飾っていたり、使い慣れた物や気に入ってる品々を置かれる事で安心して過ごしていただける居住空間作りを行っています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内を自由に安全に移動出来る様手すりの設置がしております。部屋が分かるようにご自分の暖簾を掛けたり、部屋のドアに表札をつけています。日めくりの手作りカレンダーを設置しているので、今日が何日かすぐわかるようにしております。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり山手

作成日：平成 29年 9月 21日

市町村受理日：平成 29年 9月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	「センター方式の暮らしの情報シート」の全利用者の内容充実。	全利用者の暮らしの情報シートへの記入。	ユニット会議にて職員と情報共有し、各担当者がシートへの記入。	2ヶ月
2	35	避難訓練への住民の参加。	来年の8月の避難訓練時住民の参加。	運営推進会議等での参加の呼びかけ。	1年
3	35	救急救命訓練への職員の受講。	救急救命受講。	他施設と合同で受講。	1年
4	35	地震対応に関する定期的なマニュアル確認。	マニュアル確認。	定期的に会議にてマニュアル確認を行う。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。